

第七次中井町総合計画

第七次中井町総合計画基本構想・前期基本計画に対する パブリックコメントの結果等について

2025年11月20日

中井町企画課

日本電気株式会社

1. パブリックコメントの実施概要

Point 第5回審議会において承認いただいた総合計画について、10月10～29日にパブリックコメントを実施した。

中井町自治条例に基づき、第七次中井町総合計画基本構想・前期基本計画について、パブリックコメントを以下の通り、実施した。

実施期間 : 2025年10月10日(金)～10月29日(水)

実施方法 : 閲覧(中井町企画課、農村環境改善センター、井ノ口公民館、堺コミュニティセンター)
町ホームページへの掲載

方法 : 郵便、電子メール、ファクシミリ、持参、オンラインフォームのいずれかの方法で企画課へ提出

意見数 : 11件
内訳 インターネットからの提出者数 1人

直接持参による提出者数 1人

提案箱に対する提出者数 2人

1. パブリックコメントの結果①

Point パブリックコメントでいただいた意見と意見に対する回答は以下のとおり。

番号	該当 ページ数※	意見	回答
1	10	農産品の今後の予想も向上見込みなのか。また、その根拠はあるのか。生産人口は減少見込みは明らかではありません。今だけみてもしょうがない。 中井パーキングエリアの検索させたあと、そこからの発展、商業誘導につながっていない。 ウェルビーイングアンケート130人/8800人町人が有効な内容なのか。	計画素案の10ページには、町の特性として町の現状を記載しています。 いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。
2	14	1年分予算の公民館法の建物建設は、健全で信頼される行政運営は推進できません。	いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。
3	21	(1)耕作放棄地が増え鬱がが増え安心してくらせません。 (2)倉庫会社を誘致しても経済効果は薄い	いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。
4	23	(3)空き家・耕作放棄地対策・市街化調整区域対策が具体的に見えない。高齢化した住民が草木も刈れないのに対策も見えない。自然災害対策って具体的になんですか？	いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。
5	30	対策→は対策じゃない。調査も現場は前進しない。	いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。
6	31、51	地域固有の自然資源の戦略的な活用と保全の計画化 本町が有する豊かな自然資産を、単なる維持ではなく、「町の魅力」として戦略的に発信し、次世代に継承していくための具体的な計画を盛り込むべきです。 (1)計画に求める事項 地域資産の明確な位置づけと活用方針の策定: 町が特にアピールすべきエリアや資産(例:鴨沢城址)について、「自然や歴史を楽しむ」「文化・学習の場として利用する」「地域活性化の核とする」といった具体的な活用方針を定めてください。 保全と利便性の両立: 活用と同時に、自然環境の維持管理計画、および地域住民や他都市からの訪問者が安全かつ適切に利用するためのアクセス・環境整備計画を策定してください。 (2)理由 自然豊かな町という普遍的な魅力に加え、鴨沢城址のような固有の資源を計画的に扱うことで、他地域との差別化を図り、定住促進や交流人口増加に繋がる持続可能な魅力づくりが可能になると考えるため。	総合計画は町の最上位計画であり、町の総合的な方向性を位置づけるものとなります。 ご意見いただきました「地域固有の自然資源の戦略的な活用と保全の計画化」につきましては、個別計画または個別施策にて取り組んでまいります。

※パブリックコメントの対象である、第七次中井町総合計画案の該当ページ数

1. パブリックコメントの結果②

Point パブリックコメントでいただいた意見と意見に対する回答は以下のとおり。

番号	該当 ページ数※	意見	回答
7	43	人口が減るんだから移動インフラは、すべてマイカー推進で良い。車産業充実促進で良いのに、なぜバスにこだわるのか。	本町でも少子高齢化の進展とともに、交通弱者と言われる、自家用車を運転できない高齢者や未成年者などが増加傾向にあります。こういった方が、日常生活及び社会生活に不可欠な移動手段を確保することが必要であると考えております。
8	47	<p>少子化時代における持続可能な教育体制の構築 児童生徒の減少は今後も続くと予想されるため、小中学校の教育環境を持続的に維持し、質を向上させるためのダイナミックな教育体制の再編方針を計画の柱として位置づけるべきです。</p> <p>(1)計画に求める事項 教育資源の最適化に向けた方針の明記：児童減少に伴い予想される教育活動の変化に対し、学校運営、施設、人材などのリソースをどのように最適化し、より質の高い教育を維持していくかの基本方針を明確にしてください。 地域連携を前提とした運営モデルの導入：具体的な施策の方向性として、学校の枠を超えた地域の力を活用する部活動の地域連携・地域移行を計画の方針に明確に盛り込み、そのための基盤整備を推進してください。</p> <p>(2)理由 従来の体制維持に固執するのではなく、変化を前提とした計画を策定することで、将来にわたって町全体で子どもたちを育て、学習機会を確保する強固で持続可能な教育基盤を構築する必要があるため。</p>	<p>総合計画は町の最上位計画であり、町の総合的な方向性を位置づけるものとなります。</p> <p>ご意見いただきました「少子化時代における持続可能な教育体制の構築」につきましては、個別計画または個別施策にて取り組んでまいります。</p>
9	65	人口が4,860人に2060年にはなる。人口減少が一定の前提とした対応を行う旨が定められている。と定めているのに年間予算1年分を使って、公民館法の発展性の考えにくい建物を建てるのは、この考えを無視して人口増加見込があるということなのか？その具体的根拠を示してほしい。	本計画に位置付ける人口ビジョンにおいても、今後の本町の人口推計は減少傾向であると見込んでおります。 いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。
10	65	人口減が予想される中、40億かけてのセンター建設は本当に必要なかもう一度、町民アンケート賛否をとっていただきたい。	いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。
11	65	<p>「幸福度」の指標は良いと思う。 全体的に、よくまとめられた良い計画だと思うが、各予算配分にギモンが残ります。(全て、手をつけられるのか…?) 特に、30年後に町民が70%になる人口推計に対し、大きな箱モノ投資(40億の比奈窪56プラン)をしてしまうと、他の事は出来ないと感じる。 この計画に対し、町民1人あたりの負担が知りたい。</p>	いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。

2. 地域懇談会の実施について

Point

総合計画の策定に関して、町民への理解の増進と自由な意見を聴取する観点から、パブリックコメントの実施と並行して、地域懇談会を実施した。

実施期間 : 2025年10月5日(日)、7日(火)、10日(金)

実施場所 : 境コミュニティセンター、農村環境改善センター、井ノ口公民館

方法 : 自由参加

実施内容 : ①町長あいさつ
②総合計画の策定について(策定の考え方、策定方法についての説明)
③質疑

2. 地域懇談会における主な意見

Point 地域懇親会においていただいた主な意見と回答は以下のとおり。

意見	中井町回答
中井町の「町民」の定義はどうなっているか。住んでいる人以外も町民に含まれるのか。	自治基本条例に定義された町民であり、住民だけでなく通勤・通学で町に関わる方も町民として位置づけられている。アンケートは町に関わりのある方全体を対象として実施。町内の事業所にも調査依頼をしており、住んだことがない方にも回答を得ている場合がある。
町民に対するアンケートの規模や結果の妥当性、今後の方針はどう考えているか。	今後、毎年実施するが、全件調査を毎年行うのは費用的に難しい。統計学的には所定の母数で問題ない水準を担保する形を取り、ウェブアンケートと直接対話(自治会の懇談会・カフェミーティングなど)を組み合わせて意見を施策に反映していく方針。
幸福度をどのように測り、政策評価に活かしていくのか。	幸福実感を高めることを目的としたKPIを設定・算出し、施策を回すことで幸福度の向上を目指す。アンケートだけでなく、広報・対話を通じた実効性の評価も併用。なお、幸福度が必ずしもすぐ上がるわけではなく、継続的な施策実施と評価が重要。
地域幸福度を「居住者だけの幸福度」で考えるべきか、それとも中井町ならではの暮らし方を含めて考えるべきか。	地域幸福度は居住者だけでなく、町外から来る人の暮らしや町のつながり方も含めて考えるべきとの見解。中井町ならではの暮らし方・価値観を重視しつつ、健康・生きがい・人とのつながりといった要素を含めた幸福度を評価するべきとの意見。ウェルビーイング指標の導入を紹介し、多様な視点を取り込みながら施策を策定していく。